

AIを活用したリスクベース保全（RBM）*1の取組みが 多摩イノベーションエコシステム促進事業の「リーディングプロジェクト」に選定されました

当社の「AIを活用した老朽設備保全のためのリスク検知及び安定稼働に向けたサポートサービスの検証」の取組みが、東京都「多摩イノベーションエコシステム促進事業」の「リーディングプロジェクト」に選定されました*2。

本プロジェクトでは、当社がこれまで大プラント（石油精製、化学、発電、廃棄物）に対して適用実績をもつ「AIを活用したRBM（リスクベースメンテナンス）」を、各種中小製造業の設備および社会インフラに適用できるかを検証します。高経年化や熟練技術者の減少などの課題の解決に向けて、熟練者に依存しない安定稼働の実現を目指します。

導入のメリット



数値に基づく保全計画

リスクについてAI検知をもとに数値として見える化することで、指標に基づいた管理・計画が可能となります

経験則に頼らない予防保全

保全実施のタイミングをリスク評価に応じて判断できるようになり、突発故障の防止や、保全担当者の適切な人員配置に活かすことができます

貴社のプラント・設備への適用に関心のある方は、以下にお問い合わせください。

メール； s-kihara@b-mat.co.jp、 TEL； 042-5060-9641, FAX； 042-506-9642

*1 プラント・設備の各部位におけるリスク（破損の起きやすさ×破損による被害の大きさ）を基準に保全を行う方法で、リスクと保全費用の最適化を図ることができる。

*2 <https://tama-innovation-ecosystem.jp/project/reform/4806/>

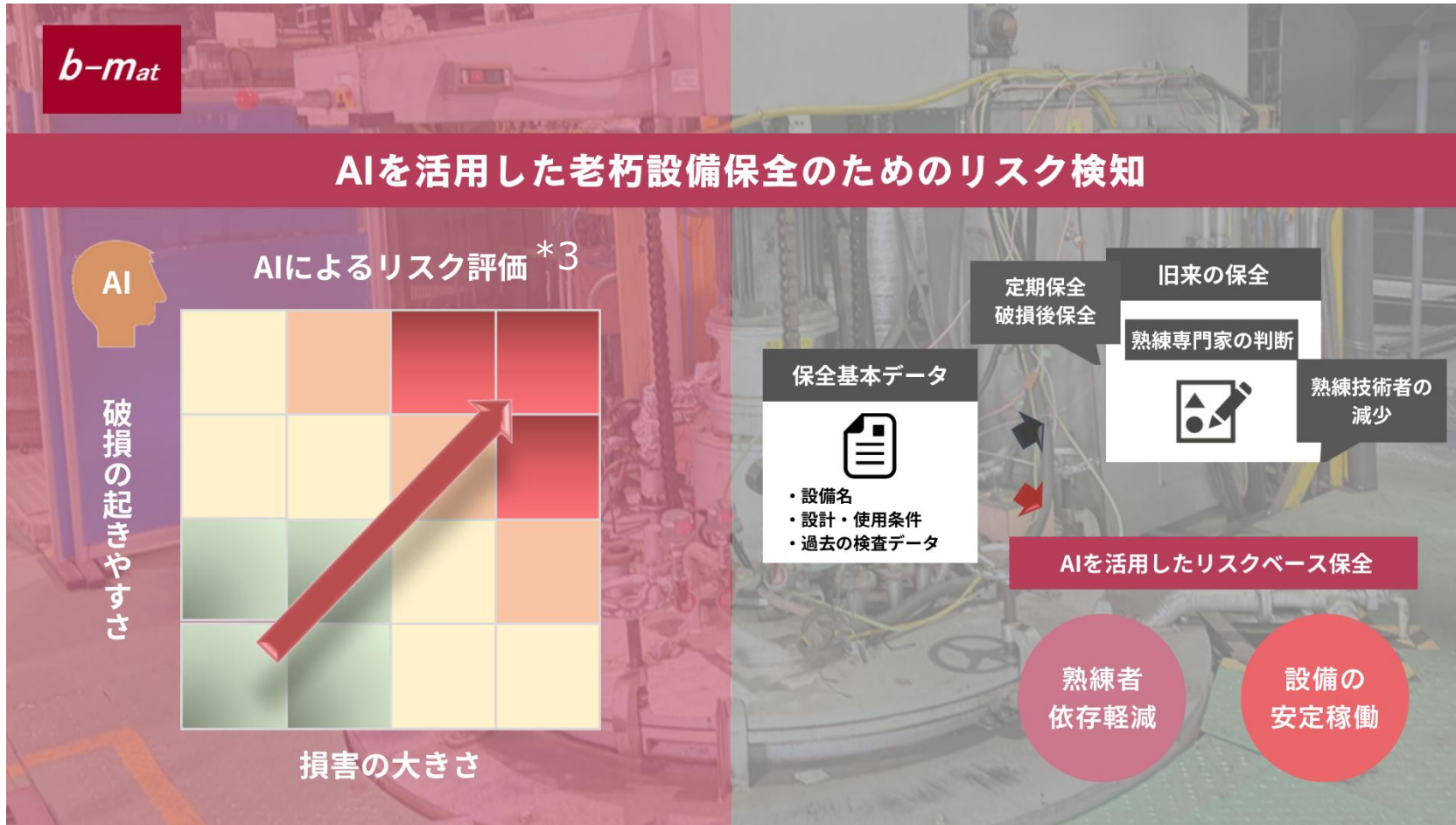


図1 AIを活用したリスクベース評価

*3 熟練保全技術者の判断ロジックをルールベース化したAI、使用条件（材料、温度、応力、環境）から懸念される劣化損傷機構を設定することができる。